

2/4  
(木)

堂ノ内地区土地区画整理事業  
準備委員会が市に支援を要望

伊達市役所

request

堂ノ内地区への大規模複合商業施設の誘致に向けて、道路や上下水道などの基盤整備事業を行うため、地権者らが土地区画整理組合の設立を目指しています。同組合の準備委員会が、組合設立と事業認可に向け市に要望書を提出しました。直江市治会長は「県北地域の発展のため早期に事業を実現したい。」と話し、事務や技術面、財政



面での支援を要望しました。須田市長は「県北地域の発展の礎になる事業。公共の観点から支援をしたい。」と述べました。

2/5  
(金)

空き家の適正管理で連携協定  
市とシルバー人材センターが締結

伊達市役所

agreement

市内には854件の空き家があります（平成27年調べ）。空き家の適正管理を進め、生活環境の保全と高齢者の就業確保のため協定を締結しました。シルバー人材センターが見回りや草刈りなどを行い、市は相談を受けた場合などに事業を紹介します。須田市長は「管理不全の空き家を発生させない取り組みも同時に推進し



たい。」と述べ、佐藤文雄理事長は「快適な生活環境と雇用確保が図られるのは画期的。社会貢献したい。」と話しました。

1/30  
(土)

工事中の安全を祈願  
伊達小屋内運動場建設工事

伊達小学校

ceremony

安全祈願祭では、工事の関係者が地鎮の儀式を行い、玉串を捧げて工事の安全を祈りました。須田市長は「緊急避難や防災機能も含め、学校施設のあり方を検討してきた。未来を担う子どもたちが安心して学び、活動ができるよう1日も早い完成を願っている。」と述べました。屋内運動場は令和3年度内に



完成し、引き続き令和4～5年度に校舎の建設工事が行われ、新校舎での授業開始は令和6年3月を予定しています。

1/30  
(土)

家庭内から考える男女共同参画  
がテーマ 講演会を開催

伊達市役所

event

1月30日、男女共同参画講演会が開催され約20人が参加しました。講師は(株)ペンギンエデュケーション代表取締役の横田智史さん。横田さんは実生活や経験を絡めながら講演を行い、「家庭も職場も指示や命令より“会話”が重要。子育てなどの生活面の経験が仕事力に生かされ、相乗効果がある。」と伝えました。



参加者からは「男性の立場からの話が新鮮だった」「家庭で何かできないか考えたい」といった感想が寄せられました。

1/28  
(木)

大人への第一歩を踏み出す  
市内中学校で立志式

松陽中学校

ceremony

立志式は、古来の成人の儀式である元服の年齢を迎えた中学2年生が、大人としての自覚を深める機会として毎年行っています。今年は486人が立志の年齢を迎えました。このうち松陽中学校では53人の生徒が立志式に臨み、生徒を代表し大橋佑羽さんが立志証書を受け取りました。また、角田鈴王さんが「日本



の未来を担う者として今を一生懸命に生き、故郷に誇れる大人になります。」と力強く誓いの言葉を述べました。

1/29  
(金)

堂ノ内地区計画決定にむけ  
都市計画審議会が答申

伊達市役所

ceremony

堂ノ内地区に新たな交流拠点を形成する都市計画の決定について、都市計画審議会の奥村会長から、市の諮問に対し、異議なしとする答申書が須田市長に手渡されました。審議会は、近隣市町との連携や交通対策、水害対策など、配慮すべき点について意見を付しました。市は県との本協議を経て2月5日に都



市計画を決定。今後は地権者らで組織する土地区画整理組合の設立の支援やその他の法的手続きを進めます。

1/21  
(木)

地域の見守りなどで包括的連携  
市と日本郵便(株)が協定締結

伊達市役所

agreement

市と日本郵便はすでに高齢者の見守りや健康都市づくりで協定を結んでいます。今回の協定には災害時の連携や地域経済活性化の支援を加え、地域の見守り、道路破損の情報提供など、より大きな枠組みでの連携を確認しました。須田市長は「市の発展に大きく貢献すると心強く思っている。」と期待を述べました。日本郵便(株)の



古屋正昭東北支社長は「市内15の郵便局で地域を見守り、安心安全の拠点として市発展に努めたい。」と話しました。

1/27  
(水)

元気に戻ってきてね  
掛田小児童が鮭の稚魚を放流

広瀬川(霊山町)

event

鮭の稚魚を放流したのは掛田小2年の児童29人です。この活動を26年間続ける「広瀬川に鮭をもどす会」が広瀬川の支流でとった卵をふ化させたもので、4センチほどに育った稚魚約1万3,000匹が放流されました。同会の二瓶富章会長が、鮭が成長し、4年をかけてまた同じ川に戻ってくるまでの過程



を説明しました。児童たちは「元気でね」「大きくなってね」と声をかけながら、大切に稚魚を送り出していました。

